

一般社団法人日本物理学会

2013年度（2013年1月1日～2013年12月31日）事業計画書

I. 概要

本会は2012年度に2つの決断をした。(1)長期的な観点から学会を運営できるようにするため会長の任期を1年から2年に変更する方針を固めたこと、(2)JPSJの新しい電子版プラットフォームへの移行を早く行い、その後数年かけて購読の状況を見ながら、大手出版社との提携を含めて次のステップを検討することにしたこと、がそれである。

2013年度は、2012年度の運営方針を継続、発展させ、まず、英文誌JPSJのプラットフォーム問題を解決し、順調に優れた論文の投稿が進むように、また、購読を維持、拡大するよう努力する。また、オープンアクセスの新雑誌PTEPは掲載論文の数と質を確保できるかが重要であるので、注意していきたい。今年度の新しい重要な課題としては、物理学が工学などの他の分野とつながりがある基礎的な科学であることを考慮して、物理学会の発信力を強めたい。そのために、物理学会のホームページをより魅力的にし、会員だけでなく、多くの非会員に興味を持って読まれるような情報、記事が掲載されるものにしたい。また、物理学会を現在の会員だけでなく、非会員へ向けて裾野を広げることに努力したい。国際的な連携に関しては、2013年7月に日本で開かれるAPPC12（第12回アジア太平洋物理会議）を主催し、その成功を目指す。

具体的には、本会は2013年度の事業遂行において以下の諸項目を中心として活動を行なう。

- 1) 会員サービスの向上のための新しいデータベースの整備
- 2) 英文誌刊行事業の整備
- 3) 他学協会・団体との連携の強化
- 4) 社会への物理学情報の発信力強化と学会活動の広報
- 5) 国際的活動体制の強化
- 6) 物理学関連の教育、人材活用・支援を通じた社会連携
- 7) 学会活動を支える組織・財政基盤の整備

II. 経営・財務状況の概略

本学会の事業規模・財務状況は2008年以降を例にとると、損益と資産状況について凡そ以下のように記述できる。（単位百万円）

学会全体（大会、会誌、英文誌、各種講演会など本学会活動の全て）

2008年	経常収益：443	経常費用：447
2009年	経常収益：462	経常費用：416
2010年	経常収益：423	経常費用：412
2011年	経常収益：397	経常費用：401

うち英文誌刊行事業（JPSJ刊行事業。大部分は刊行センターでの活動に関わる）

2008年	経常収益：94	経常費用：99
2009年	経常収益：132	経常費用：109
2010年	経常収益：115	経常費用：102

2011年 経常収益：101 経常費用：93

財務状況（正味財産と負債の和が本学会の資産となる）

2008年 正味財産：748 負債合計：310（退職給付引当金、前受金、未払金等の合計）

2009年 正味財産：782 負債合計：295（退職給付引当金、前受金、未払金等の合計）

2010年 正味財産：793 負債合計：178（退職給付引当金、前受金、未払金等の合計）

2011年 正味財産：789 負債合計：195（退職給付引当金、前受金、未払金等の合計）

※2010年より会費収納方法変更により前受金が減少

この状況は2008年以来、大きく変化することなく、正味財産の増減は前年比10%以内、会計の総合収支は収支均衡で推移している。

### III. 事業実施上の重点

2013年度の事業計画で、上記諸項目に対応する重点実施事項を以下のように定める。

#### 1) 会員サービスの向上のための新しいデータベースの整備

昨年（2012年度）より構築を続け、現在信頼性確認作業を進めている新会員データベースの本格運用を開始する。そのデータベースと連動した会員に対するマイページ機能、新入会希望者のための入会ページ機能などの会員サービスの導入を急ぎ、会員、事務局双方の利便性向上を実現する。このようなシステム基盤上で会員に対する新しいサービスのあるべき姿を検討していく。

#### 2) 英文誌刊行事業の整備

2013年に本格スタートするPTEPについては優れた論文が多数掲載されるように、PTEP編集委員会と共に努力していく。JPSJについては2013年には長年の懸案の新プラットフォームへの移行の作業に取り組む。また、購読数の維持、拡大のため努力していきたい。これに関係して、JPSJの財政状況に注視し、状況によっては大手出版社と提携する可能性も排除することなく、検討を続けていきたい。

#### 3) 他学協会・団体との連携の強化

刊行センターの運営、AAPPsの開催では応用物理学会と連携し、物理教育活動に関しては物理教育学会、物理オリンピックに関しては物理オリンピック委員会と協力して活動を行うため関係を維持、発展させる。

#### 4) 社会への物理学情報の発信力強化と学会活動の広報

科学セミナー、公開講座、Jr.セッションなど、これまで行ってきた社会への物理学情報の発信力を強化する。また、会誌への記事掲載、イベントへの参加などを通して、社会に質の高い物理学情報を提供する。そのためにHPの整備を行う。

#### 5) 国際的活動体制の強化

協定学会との関係強化の努力を継続する。それと共に、AAPPsの活動機能の強化に向けて努力する。特に、Divisionを形成して実効的な活動の核にする計画を進める。また、AAPPs Bulletinの刊行に協力する。さらに、2013年7月に日本で開催されるAPPC12を成功させるため、応用物理学会、組織委員会と協力していく。あわせて、ヨーロッパ物理学会（EPS）とAAPPsの共催によるASEPS（アジア欧州物理サミット）をホストする。学会の英文ホームページを充実させる。

#### 6) 物理学関連の教育、人材活用・支援を通じた社会連携

キャリア支援の活動、男女共同参画の活動を継続するため、支部活動、委員会活動との連携を強化する。

物理教育シンポジウム、基礎物理実験講座の開催等により、物理教育の改善に寄与する。

7) 学会活動を支える事務局組織・財政基盤の整備

学会の日常活動を支えている事務局が職員にとって働きやすい環境であるように注視し、人員配置を行う。また、物理学会の財政を健全に保つように、財政基盤整備に努める。

I V. 実施予定事業

1. 学術的会合	<p>1-1. 年次大会</p> <p>1-1-1. 第 68 回年次大会 会期：3月26日(火)～29日(金) 会場：広島大学（東広島市鏡山一丁目3番2号）</p> <p>1-1-2. 秋季大会</p> <p>1-1-2-1. 素粒子論、素粒子実験、理論核物理、実験核物理、宇宙線・宇宙物理、ビーム物理の各領域 会期：9月20日(金)～23日(月・祝) 会場：高知大学（高知市曙町二丁目5番1号）</p> <p>1-1-2-2. 上記以外の領域(主に物性関係) 会期：9月25日(水)～28日(土) 会場：徳島大学（徳島市南常三島1丁目1番地）</p> <p>1-2. 日本学術会議関係シンポジウム 学術会議の活動との連携に努力する。</p> <p>1-3. 国際会議の共催等</p> <p>1-3-1. アジア・ヨーロッパ物理学サミット(ASEPS) 次回会合を2013年開催のAPPC12の際に日本で行う。</p> <p>1-3-2. その他 他学協会等主催の国際会議等で、共催・協賛・後援等の要請のあるものについては理事会で審議のうえ決定して実施。</p> <p>1-4. 国内会議等の共催・協賛・後援 他学協会等主催の国内会議等で、共催・協賛・後援等の要請のあるものについては理事会で審議のうえ決定して実施。</p> <p>1-5. 支部例会等 北海道、東北、新潟、名古屋、北陸、京都、大阪、中国、四国、九州の各支部において適宜開催。</p> <p>1-6. 学術講演会その他の催し</p> <p>1-6-1. 第9回 Jr. セッション</p>
----------	--

	<p>会期：3月27日(水)  会場：第68回年次大会会場(広島大学)</p> <p>1-6-2. 物理教育シンポジウム  テーマ：未定  会期：未定  場所：未定</p> <p>1-6-3. 科学セミナー  テーマ：未定  会期：未定  場所：未定</p> <p>1-6-4. 公開講座(科研費補助金研究成果公开发表(B)を申請)  対象：主に高校生</p> <p>1-6-4-1. 大阪支部企画  テーマ：物理の新しい地平を切り開く「ビッグサイエンス」～大きな「謎」へと挑む壮大な「プロジェクト」  会期：10月26日  場所：大阪市立大学 学術情報総合センター</p> <p>1-6-4-2. 理事会企画  テーマ：「物理学がヒッグズ粒子にたどり着くまで」(仮題)  会期：11月2日  場所：東京大学小柴ホール</p> <p>1-6-5. 市民向け講演会  年次大会、秋季大会開催時に高校生・一般市民向けの講演会を開催する。</p> <p>1-6-6. 理事会企画シンポジウム  主題：未定</p> <p>1-6-7. 楽しい物理教室  国立科学博物館、日本物理教育学会との共催で、年5回開催  対象：小学高学年・中学生  場所：国立科学博物館(東京・上野)</p> <p>1-6-8. 世田谷区中学生講座  世田谷区教育委員会に協力して、年5回程度開催  対象：世田谷区内の中学生</p> <p>1-6-9. 基礎実験講習会  本会支部、日本物理教育学会他との共催で夏期に開催する。</p>
2. 刊行関係	<p>2-1. 日本物理学会誌  第68巻1号～12号 月刊 A4判 毎号約110ページ 各17,500部発行。  なお、年次大会・秋季大会のプログラムを3月および8月に増刊号としてそれぞれ発行予定。</p>

	<p>2-2. Journal of The Physical Society of Japan (JPSJ)  Vol. 82 No. 1~12 冊子版：月刊 A4判 毎号約 250 ページ 各 580 部発行。  電子版：随時公開  刊行業務は応用物理学会と協同運営する物理系学術誌刊行センターが行う。  APS March Meeting (ボルチモア) への日本物理学会ブースの出展を予定(3 月中旬) JPSJ の掲載・購読料金の請求・支払用オンラインシステムを構築する。</p> <p>2-3. Progress of Theoretical and Experimental Physics (PTEP)  第 86 回通常総会第 7 号議案に基づき、2013 年 1 月から毎月 1 号の定期的な刊行を行う。  Vol. 2013 Issue1~12 (電子版のみ) 各号の中の論文は随時公開。オープンアクセスジャーナルとして無料で公開する。</p> <p>2-4. 大学の物理教育  3 月、7 月、11 月の年 3 回発行</p> <p>2-5. その他  下記の研究資料等を発行し会員等の希望者に有料または無料で頒布する。</p> <p>2-5-1. 講演概要集  年次大会・秋季大会の講演概要集各 4 分冊</p> <p>2-5-2. 公開講座テキスト (無料)  2013 年度に開催する公開講座のテキスト</p> <p>2-5-3. 会員名簿  新会員データベースにて名簿機能を持たせる計画を実行する。</p> <p>2-5-4. JPSJ Supplement  Proceedings of Nanoscience and Quantum Physics 2012  (出版時期：2013 年 6 月)  Proceedings of QENS/WINS 2012 (出版時期：2013 年 7 月)</p> <p>2-5-5. 論文選集目次欄の WEB 公開。</p>
<p>3. 国際交流・協力関係</p>	<p>3-1. オーストラリア・ヨーロッパ・ドイツ・韓国・台湾・香港・メキシコ・ポーランド・アメリカ・イギリス等の物理学会、その他の諸団体との交流・協力</p> <p>3-2. 中国物理学会との連携強化に努力</p> <p>3-3. AAPPS (アジア太平洋物理学会連合) の運営への積極的参加</p> <p>3-4. AAPPS Bulletin 刊行への援助</p> <p>3-5. ASPEN (Asian Physics Education Network) への協力</p> <p>3-6. 開発途上国への JPSJ 掲載料金援助および JPSJ 等の寄贈</p> <p>3-7. IUPAP (International Union of Pure and Applied Physics) への協力</p> <p>3-8. UNESCO PAC (Physics Action Council) への協力</p> <p>3-9. APPC12 (The 12th Asia Pacific Physics Conference) 第 12 回アジア太平洋</p>

	<p>物理会議の開催</p> <p>日程：7月14日～19日</p> <p>場所：千葉県の幕張メッセ国際会議場</p> <p>3-10. IUPAPのWomen in Physicsへの代表派遣</p> <p>3-11. アジア欧州物理サミット(ASEPS)への協力</p>
4. 図書・雑誌の 供覧および物理 学史資料の利用	<p>本会所蔵の図書・雑誌を会員の利用に供する。また本会所蔵の物理学史資料の利用希望に応じる。成田倉庫を整理し、2013年中に引き払う。</p> <p>年表を改訂する。</p>
5. 表彰	<p>5-1. 日本物理学会論文賞</p> <p>JPSJおよびPTP掲載論文の中から5篇以内を選び表彰する。</p> <p>5-2. 日本物理学会若手奨励賞</p>
6. キャリア支援 センター	<p>引き続き、キャリア支援センターを中心に関係協力機関と連携して物理系博士人材のキャリア支援活動を継続する。主な活動予定は、物理系人材向けのキャリア支援イベントを開催することと、Webやメールを通じたキャリア支援関連情報の広報活動である。</p>
7. その他	<p>7-1. 理事会で適当と認められた事業</p> <p>各種委員会等での検討をもとに理事会で承認した事業等。</p>